

はしがき

酪農教育ファームの認証制度は、その議論のスタート以来10年が経過し、ゆっくりではあるが、酪農家、そして認証母体である中央酪農会議をはじめとする関係者の努力により着実な展開をみせてきた。本制度は、我が国において初めて教育ファームという概念を導入し、農業部門の有する教育力を具体化した取り組みとして、その先駆性が高く評価されている。しかも、そうした努力が行政の上からの指導ではなく、あくまでも酪農家やその全国組織である中央酪農会議によるいわば、ボトムアップによる自主的な努力によりなされてきた点に、もう一つの意義がある。

しかし、その活動実態や、認証牧場の担当者の意識については、毎年の活動報告によるや部分的な調査などで把握されてきたものの、その全体像と活動内容の詳細について本格的な調査を行い把握することは、これまでなされていない。

これまでの酪農教育ファームの展開と訪問体験者数の増加は、酪農経営の新たな社会的役割が生まれ、それが社会的な需要として定着しつつあることを示している。したがって、こうした新たな活動を酪農経営の多角化の方向性の中に位置づけて育成を図ることが重要と考える。

以上の趣旨に基づき、今回中央酪農会議では、(独)農畜産業振興機構による酪農理解醸成活動推進事業の一環として、酪農経営の一部門としての酪農教育ファーム活動の経済的自立の条件を明らかにすることとなった。本調査研究事業は、千葉大学大学院園芸学研究科の研究グループが担当した。

本調査研究は、酪農教育ファームの活動実態をとらえた初めての本格的な調査研究であり、その結果から、認証牧場の詳細な活動実態が明らかにされたのみならず、酪農業ファームの発展の原動力が二つのネットワーク組織にあること、自立化指向に作用している要因の解明など、今後の経済的自立化に向けた支援策構築のため有用と考えられる多くの知見が得られている。本報告書を、今後の酪農教育ファームの発展の基礎資料として、また我が国の教育ファーム全般の発展のための基礎資料として活用いただければ、担当者としてこれに勝る喜びはない。最後に、本調査にご協力いただいた酪農教育ファームの方々に感謝申し上げます。

平成22年3月

代表 千葉大学大学院園芸学研究科
教授 大江靖雄

調査研究体制

代表 研究総括およびアンケート調査解析

千葉大学大学院園芸学研究科 教授 大江 靖雄

事例調査

千葉大学大学院園芸学研究科 准教授 吉田 義明

目 次

酪農教育ファーム活動の経済的自立に関する調査研究報告（要約）	1
酪農教育ファーム活動に関するアンケート調査分析結果	5
はじめに	5
調査方法	5
未回答・回答牧場間の属性	5
単純集計結果	8
クロス集計分析結果	23
1)カイ 2 乗分析結果(質的要因)	23
2)t 検定分析結果(量的要因)	31
活動の経済的自立化へ向けた要因解析	36
1) 開放型ネットワーク組織の意義	36
2) 2 つの組織と社会的学習	38
3) 分析フレームワーク	39
4) 経済的自立化の決定モデル	40
5) 計測結果	41
自由記述に関するテキスト分析	44
今後の支援施策に関する示唆－むすびに代えて－	45
自由記入欄の回答	47
酪農教育ファーム事例紹介	58
はじめに	58
事例 A－高原酪農の理想を追って－	58
事例 B－山のとっぺんのレストラン－	61
事例 C－世界と交流する酪農家－	64
まとめ	67
資料	69
酪農教育ファーム活動に関する調査票	71
調査依頼状	81
回答礼状兼回答依頼状	82
回答依頼状(2 回目)	83